

令和6年度 第2回 調布市地域経済対策会議要旨について

開催日：令和6年9月11日（水） 午後4時から6時まで

場 所：市長公室（市役所5階）

出席者：渡部完治（調布市商工会 会長）

秋沢淳雄（調布市商工会 副会長）

玉村秀樹（調布市商工会 副会長）

相田英俊（調布市商工会 商業部会長）

品川信幸（調布市商工会 工業部会長）

阿部秀樹（調布市商工会 サービス業部会長）

大前勝巳（調布市商工会 商業副部会長）

山口 純（調布市商工会 事務局長）

加藤恭永（多摩信用金庫 調布支店長）

本田尚美（調布市 副市長）

小柳 栄（調布市 行政経営部長）

鈴木克昌（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興担当部長）

深沢典充（調布市 生活文化スポーツ部 次長）

伊東良之（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課長）

花岡 裕（調布市 生活文化スポーツ部 産業労働支援センター担当課長）

平野良弥（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課長補佐）

栗野和也（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課副主幹兼商業観光係長）

足立真宏（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課産業労働支援係長）

西郷晴久（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課主任）

野口大輔（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課主任）

佐藤恵太（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課主事）

フネブルグ由佳（調布市 生活文化スポーツ部 産業振興課主事）

1. 事業者支援策等の取組状況について

【商工会会長】

- ・10月5日、6日には商工会が主催の商工まつりを控えており、市内の皆様楽しんでもらえるようしっかりと準備を進めている。ぜひ皆様にも祭りの賑わいを楽しんでいただきたい。
- ・原材料高騰や人材不足の状況が続き、事業者の方たちは様々な課題を抱えている。本日の会議で、現状の把握や打開策について建設的な意見交換ができればと思う。

【商工会商業部会】

- ・深大寺界限の話からさせていただくが、深大寺は「武蔵野の緑と寺と蕎麦」というキャッチコピーで観光に力を入れている。気温が高くなる夏、特にお盆の時期は閑散期となっており、来客が非常に少ない。鬼太郎茶屋が閉店となり、鬼太郎茶屋を目的としてき

た人もいなくなってしまう。代わりに、若い女性の方が多く見られるようになった。話を聞いてみると、SNSでインフルエンサーの方が、深大寺の動画を上げて、バズっている（流行っている）とのこと。最近では、観光だけでなく、職探しにおいてもSNSを活用しているという話をよく聞くため、SNSを活用していくことが重要だと感じた。

- ・調布は地価が上がっており、調布駅周辺の新築マンションでは、一番広い部屋の値段が億単位に昇る見込みになっているにも関わらず、複数の応募があり、抽選になると伺っている。調布駅周辺の事例ではあるが、客層にあった店づくりや情報発信の仕方を考えていかなければいけないと感じた。

【商工会工業部会】

- ・状況は6月からさほど変わっておらず、原材料や人件費の高騰により、厳しい経営状況となっている企業が多い。多くの事業者は、来年の春くらいまでは厳しい状況が続くと見込んでいる。少数であるものの、防衛関係や医療関係の仕事を請け負っている事業者は、比較的安定した売り上げとなっている。
- ・今年の10月頃から企業マッチング会を実施するとともに、展示会が各所で開かれるため、様々な企業の状況を確認しながら、今後の対策を考えていきたい。
- ・様々な業種の企業が入居するハイテクセンターのような施設があれば、多くの方にアピールすることができるので、設置を検討していただきたい。

【商工会建設業部会】※川又建設業部会長は欠席のため、商工会 山口事務局長による代読

- ・原材料の高止まりが続いているが、多くの事業者は価格転嫁をすることができている。そのためか、エンドユーザーであるお客様は、価格に敏感になっていると感じている。例えば、自宅のリフォームの際、これまでは見積もりから契約まで比較的スムーズに進むケースが多かったが、最近は複数社に見積もりを取り、比較したうえでようやく契約というケースが多い。
- ・部材費については、上げ止まったように感じている。一方で、人件費はいまだに高騰しており、今後もさらに上がっていく見通しとなっている。事業者によっては、離職を防ぐため、前年と比較して約20%程度給料を上げている。人員不足の状況も続いているが、人件費の高騰から従業員の新規採用が難しいため、協力会社に依頼して人を派遣してもらっているケースが多いと聞いている。
- ・現場のデジタル化については、ゆっくりではあるが着実に進んでいる。以前は現場の写真を黒板に貼って共有するということがあったが、現在はタブレットを活用している。
- ・近年、個人向け住宅は、省エネルギー基準設置と言われるような高機能な住宅が浸透しておきており、中小企業では対応できない案件が増えている。また、価格的にも大手は安価な傾向があるため、中小企業は取り残されないよう工夫が求められていると感じている。

【商工会サービス業部会】

- ・サービス業の会員は、事業の業種や経営規模が様々ではあるが、どの事業者も物価高騰

による経費や人件費の増加、人材確保の問題は共通した問題となっている。

- ・10月から東京都の最低賃金が50円程引上げされることや社会保険の適用が拡大される予定であるが、それらの費用を価格転嫁できずに悩んでいる事業者が多い。
- ・このような状況において、部会員の方から、活用できる補助金はないかといった相談を受けることがあるが、企業によって使える補助金が異なっている。物価高騰に対応した補助金など、状況にあった補助金が増えるとありがたい。
- ・部会では、企業間同士の交流機会が設けられていなかったため、10月に異業種交流を目的とした研修会や名刺交換会を実施する予定。また、事業者のPRのため、今年度中に冊子を作成するほか、来年度の商工まつりでは、子どもたちが参加できる仕事体験ブースを設けたいと考えている。

【商工会事務局】

- ・窓口相談の最近の傾向としては、コロナ禍を経て、経営計画を改めたいという事業者の方が増えている。国や都などの様々な補助金を活用するために、会社の基盤を一度立て直そうと考えている事業者の方が多くいることが背景にあると感じている。
- ・資金面の相談については、夏前ぐらいまでは、金利が上昇する前に商工会の固定金利の融資に借り換えをされる方が多くいらっしやった。現在は、例年通り程度の件数となっている。
- ・人手不足の問題については、商工会のすべての業種の方から話を聞いているが、商工会では対応する施策がないため、難しい問題だと捉えている。
- ・新たな傾向として、生成AI関連の相談が聞かれるようになった。

【市内金融機関】

- ・住宅購入資金の借入については、金融機関でも、柔軟性に富んださまざまな商品を用意しており、借入希望者の収入や世帯等の条件もあるが、比較的大きな金額でも借りることが出来るようになっている。そのようなことも含め、最近の相談では、金利に関するものが増えている。
- ・特に貸出金の金利に影響を及ぼす短期プライムレートが、平成21年1月以来15年ぶりに、1.475から1.625に引き上げられたことにより、借主の返済額は、年末から年始にかけて上昇する見込みである。しかし、この程度の上昇幅であれば、致し方ないという反応を示しているお客様が多いという印象である。
- ・短期プライムレートは長期プライムレートに連動しているため、今後は、長期プライムレートが2%を超えなければ、短期プライムレートが上昇しつづけることはないの見込んでいる。
- ・いずれにしても市内の中小零細企業にとっては、市の中小企業事業資金融資あっせん事業は非常に重要な制度である。金利の上昇に合わせて表面金利の補助等を継続してもらうことで、中小企業の負担が減るため、今後も継続していただきたい。

2. 各施策の取組状況について

○調布市中小企業事業資金融資あっせん制度（コロナ・物価高騰）について

【調布市】

- ・コロナ・物価高騰口の融資実行件数について、令和6年度は8月末時点までで146件となっており、おおよそ令和4年度と同数程度の件数となっている。
- ・件数のうち、コロナ・物価高騰口は24件となっており、過去と比較すると少なくなっている。コロナは落ち着いたものの、物価高騰の影響を受けた事業者の方がいらっしゃるため、一定数の需要があると感じている。

○調布市市内物価高騰支援事業について

【調布市商工会】

- ・コロナ禍における物価高騰の影響を受ける市内事業者を支援するため、燃料費、電気料金、ガス料金の20%を補助する事業。法人は30万円、個人事業者は10万円を上限としている。なお、前回は報告したが、金額が確定したため、改めての報告するもの。
- ・申請金額は、法人が1億9510万500円、個人事業主が6133万9446円で計2億5643万9946円。申請件数は、法人が1342件、個人事業主が1448件で計2790件であった。
- ・給付金額は、法人が1億9321万7000円、個人事業主が6058万9000円で計2億5380万6000円。給付件数は、法人が1321件、個人事業主が1425件で計2746件。給付金額の平均は、法人が14万6265円、個人事業主は4万2518円、計92,439円であった。

○新商品開発等補助事業について

【調布市商工会】

- ・令和6年度から新たに実施する事業で、ふるさと納税の返礼品となる、調布ならではの商品の開発を支援する事業。新しい商品の試作・開発費用や包装パッケージのデザインなどにかかる費用の一部（3分の2）について、40万円を上限として補助するもの。
- ・国でも補助金事業を行っているが、ハードルが高く諦めてしまう事業者の方が少なくないと伺っている。その状況を踏まえ、独自の補助金を整備し、事業者をフォローしながら進めていくことで、より多くの方を支援していきたいと考えている。
- ・今年の10月から募集を開始し、審査を経て補助対象事業者を決定する予定。その後、2月までを期間とし、我々の指導員もお話を伺いながら、事業者とともに商品開発を行い、ふるさと納税の返礼品の登録を目指していきたい。
- ・なお、総務省のふるさと納税返礼品の審査は厳しいと伺っているので、審査が通らなかった場合においても、目的である調布ならではの商品の開発に対して補助を行っていきたく考えている。

○（仮称）調布市産業振興プランの取組状況について

【調布市】

- ・京王電鉄株式会社の二羽委員が人事異動となったため、6月26日付けで後任の三浦氏が委員として就任した。
- ・7月4日に第2回策定検討委員会、8月8日に第3回検討委員会を実施し、（仮称）調布市産業振興プランの骨子構成案について、委員の皆様からご意見をいただいた。
- ・骨子構成案では、上位計画である調布市基本構想の分野別将来像の2つを目標とし、商工業・観光・事業者支援の3つの観点から目標を達成するための基本方針と取組方針を定めている。
- ・次回の第4回検討委員会は、主な議題を骨子案及び素案とし、11月14日の開催を予定している。その後、11月下旬からパブリック・コメントを実施する予定。

○返礼品付きふるさと納税の現況について

【調布市】

- ・市では、ふるさと納税の返礼を通じて市や市内事業者の魅力を広く発信することを目的として、令和4年12月から、寄附者への返礼の提供を行っている。
- ・令和6年7月からふるさとチョイスに加え、楽天ふるさと納税及びふるなびの2つのポータルサイトでの寄附受付を開始した。
- ・ふるさと納税の支援事業者については、事業者候補選定プロポーザルを実施し、10月1日からの新たな委託先として（株）アースコーポレーションを選定した。
- ・9月18日に返礼提供事業者向けの説明会を開催し、すでに返礼提供にご協力いただいている事業者や返礼提供を検討している事業者に対して、ふるさと納税制度の説明や返礼の流れについて説明を行った。
- ・実績としては、9月2日時点で、掲載している返礼品数が134品、事業者数が46社となった。返礼品数は、令和4年の事業開始当時は、34品だったため、100品の増となっている。寄附額については、8月末時点で、297万円強となっており、令和5年度の同時期と比較すると5.8倍となっている。